

各議員の氏名の左にあるQRコードをスマートフォン等の専用アプリで読み取ると、一般質問の録画映像をご覧いただけます。



Q 市内福祉施設で発生した傷害事件に関する市の対応と今後の予防策について



自由民主党越谷市議団 金井 直樹 議員

問 障がい者施設における傷害事件の内容や事件後の経過の把握、今後の防止策等について市長の见解は。

市長 昨年12月下旬に、市内にある障がい者施設の入居者に対する身体的虐待行為があり、その後、介助者が逮捕される事件が発生した。今後は、施設等の運営団体に適切に改善措置が実施されているか随時確認し、必要に応じて立入検査を行い、運営改善に向けた支援を行っていく。

Q 「水を溜める」対策について



日本共産党越谷市議団 山田 大助 議員

問 豪雨等の際に河川に放出できない内水対策のため、「水を溜める」対策として調節池などの整備をすすめる考えは。

市長 新方川周辺にある既存の調整池を深くして貯留量を3.5倍にする工事に、今年度から着手する。国の考え方の柱の一つとして「雨水貯留施設の向上」があり、市もできる限りの貯水施設をつくることを考える必要がある。国の補助金等のメニューもあり、活用していきたい。



新方川周辺にある既存の調整池

Q 観光まちづくりについて



自由民主党越谷市議団 立澤 貴明 議員

問 観光振興計画のこれまでの取り組みに対する成果と課題についての见解は。

市長 将来を見据え、にぎわいの創出による地域経済の循環に取り組んでいく。

問 県の事業「水辺deベンチャーチャレンジ」を活用した大相模調節池の水辺の活用についての见解は。

市長 住民参加と官民連携による地域の価値創造と共感によるまちづくりの視点で取り組んでいく。

Q 越谷市公式ウェブサイトリニューアルについて



越谷刷新クラブ 野口 高明 議員

問 現行サイトでは、すぐに目的の情報が見つからない。市民も、職員も、事業者も、法律や制度、業務や発注情報等を把握できる新サイトの構築は、自治体DXの入り口である。本市の公開に向けた取り組みは。

市長 本事業はデジタル田園都市国家構想推進交付金を活用する。各課担当者向けに、アクセシビリティやコンテンツ作成の知識や技術、操作方法等の習得研修、情報整理など広報力底上げ研修を実施する。



現在の市公式ウェブサイト

Q 学校給食費等の徴収業務の公会計化について



公明党越谷市議団 守屋 亨 議員

問 教員の働き方改革における学校給食費等の徴収業務の公会計化についての考えは。

教育長 文部科学省からの通知の内容を踏まえ、徴収システムの構築や、市で徴収業務を行うための職員の人員体制など、さまざまな課題を整理し、これまでも検討してきた。引き続き、他市の動向を注視しながら、徴収システムの導入に向け、市長部局と協議していきたい。

Q 小中学校とPTAとの関わりについて



立憲・市民ネット 松田 典子 議員

問 社会教育関係団体であるPTAに対し、学校が協力を要請する活動の中には、子どもの安全や健全育成に関わるものという定義に外れるものがあるように感じるが、学校に見直しを働きかける考えは。

教育長 保護者の皆様には学校運営に関しさまざまな場面でご協力をいただいている。時代の変化や環境変化に合わせて活動内容を見直すことも必要と考える。機会を捉えて学校に伝えていく。

Q 越谷市公共施設等総合管理計画について



無所属 菊地 貴光 議員

問 基本方針の改訂内容は。

市長 今後40年間で、建築物の更新費用は2647億円を見込み、掛けられる経費は1604億円と積算。このことから39%の経費削減が必要となり、建築物の面積を39%以上減らす目標値を定めている。

問 39%は80年使う長寿命化工事を盛り込んだうえで足りない数字。このことの市民への情報発信、対話や合意形成は。

市長 一つ一つ考えていきたい。

Q ケアラー支援の担当部署について



立憲・市民ネット 清水 泉 議員

問 ケアラーの多数を占める高齢者介護の部局に事務局を置いただけでは他の部署を牽引しづらくなるので福祉の各分野だけではなく教育、そのほかの部門と連携できるケアラー支援の対策を実施する部署が必要。担当部署の設置についての考えは。

市長 ケアラー支援を協議する会議を設置するなど庁内連携体制の構築を進めている。担当部署についてはケアラー支援の内容が多岐にわたることから慎重に検討する。

Q 市街化調整区域の将来像について



越谷刷新クラブ 浅古 高志 議員

問 越谷市も人口減少が始まり今後さらに少子高齢化が進む中、市街化調整区域内の農地を手放す人が増え、資材置場等への転用が進む。そんな中子どもたちは通学しなければならないが、市長の见解は。

市長 市街化調整区域の今後の在り方については、無秩序な市街地の抑制と優良な農地の保全のバランスを保ちながら幹線道路等の整備状況など、地域の立地特性を考慮し、新たな土地利用の可能性を検討する。

Q HPVワクチンの丁寧な効果とリスクの説明の機会の確保について



立憲・市民ネット 大田 ちひろ 議員

問 HPVワクチンの積極的接種勧奨が始まっているが、このワクチンに関しては副反応の被害報告が多く安全性に疑問を感じる。丁寧な効果とリスクの説明が必要だと考えるが、市の現状は。

市長 接種者や保護者が正しく検討、判断するために必要な情報を提供することが重要であることから、周知方法を工夫し、保健センターにおいて、電話相談や来訪も受け付けるなど、丁寧な対応に努める。